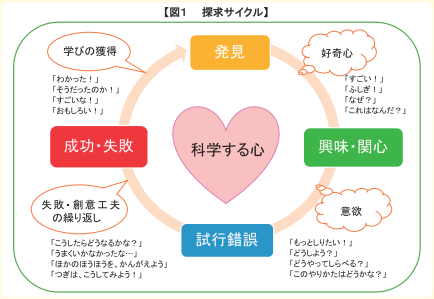
実践を論文に

まずはここから…

子どもを見る

子どもたちが、遊ぶ姿に注目する。
夢中になって遊んでいる姿、不思議や疑問に感じている姿、何かをじっと見つめている姿、その視線の先、繰り返される遊び…



「科学する心を育てる」について考える

日頃の子どもたちが、遊ぶ姿をイメージし、園で注目した子どもの姿を手掛かりに、「科学する心を育てる」について同僚や園全体で考え合う。園の考え方を明確にして共有する。園の保育目標など、育てたいと願う子どもの姿と重ねて考える。※P.6参考

視点をもって子どもの姿を観る

園で考えた「科学する心」が育まれていると感じる子どもの姿に注目する。「子どもは何に興味・関心を寄せているの？」「どんな気づき？」「何を面白がっているの？」「どんなヒラメキがあるの？」園独自の「科学する心」につながる視点をもって子どもの姿を丁寧に観る。

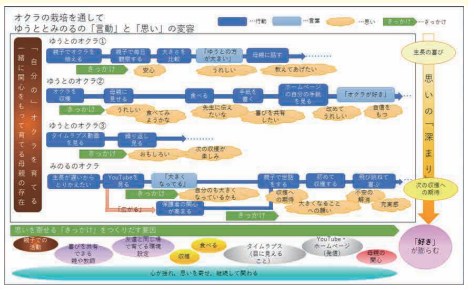
記録を取る

「科学する心を育てる」には、子どもたちの心の動きや体験を捉えることが大切。記録方法としては、メモ・写真とコメント・詳細記録・エピソード形式などの工夫。つぶやき、言葉、動き、表情、仕草などを把握した丁寧な記録から、子どものありのままの姿が浮き彫りになる。保育を可視化したドキュメンテーション、ラーニングストーリーなども、子ども・保育者・保護者など園全体で共有できる「記録」となる。

考察する

記録を明日の保育にどのように活かすのか？ どのように主題につながる読み取りをするのか？ 分析・考察の観点を明確にすることが大切。

記録を読み取る方法や園内での記録の共有を工夫する。１つの記録の場面を複数の保育者で考察することで、多面的な見方ができる。保育者間で実践の共有を図ることにもつながる。



まとめ・振り返り

複数の事例や、事例の場面を積み重ねて読み取り、時系列で実践をまとめることで、「科学する心」の育ちや変容を把握することができる。

活動の流れ、場面の展開・時間の経過による子どもの実態に寄り添った「科学する心」を育むための環境構成や保育者の援助が明確になり、それを具体化する。丁寧な振り返りによって、今後の保育の課題や方向性が明確になる。

これら一連の流れは、保育の振り返りでもあり、そのまま実践論文作成のヒントにもなっています。「科学する心を育てる」保育を目指す園のみなさんは、このプロセスを積み重ねることが、保育の質の向上につながることを実感されています。